

## Home Concert 2000 (2)

単に MIDI 信号をコンピュータから送り出して MIDI 音源を鳴らすソフト(シーケンスソフト等)でも「鳴らない」というトラブルが一番多いのですが、Windowsの場合ユーザーが勝手にMIDIの設定を変更して鳴らなくなるのを防ぐためデフォルトでMIDIの設定をしてしまうと後はどんなソフトでもデフォルトを優先的に設定します。これは親切といえは親切なんでしょうが、とにかく内部音源で鳴ってしまう場合、発音がかなり遅れますのでこのHomeConcert2000は真価をを發揮できません。

又、ピアノプレーヤ等ではKEYBOARD< >という表示モードでないとMIDI出力が正しく出力されません。ピアノをMIDIのマスターキーボードとなるように設定しなければならないからです。又、CVP205等の電子キーボードでは、本体をマスターキーボードとする設定をしないと伴奏の音は鳴るのに、鍵盤からの信号を受け付けないということが当然起こります。ヤマハCVP205の場合ではユティリティ・モードのメニューからMasterKeyboardを選べるとMIDI

OUTの出力が鍵盤演奏と共に出来ます。又、時にはコンピュータの起動時に接続してなくて後からUSBなどでMIDIを接続するとうまく認識されないことがありますから、MIDIの周辺機器の電源は最初からONのままコンピュータを起動する習慣を付けた方が良いでしょう。

このHomeConcert2000(以下HC)は普通のシーケンス・ソフトのようにMIDI信号がINかOUTのどちらか一方の方向にしか流れないのではなくFinale等のノーテーション・ソフトやシーケンス・ソフトをMIDI鍵盤から入力する時のように双方向のIN/OUT(同じポートでよい)を使用します。鍵盤自身の音源と伴奏用の音源は独立していなければなりませんMIDI THROUのECHO BACKを使えば一台のGM音源付きのキーボードでも利用できることがあるようです(ループには要注意)

## Learn Mode (練習モード)

下の画面はブルグミュラーの「アラベスク」を楽譜表示したものです。画面右上を見て下さい。

Home Concert: Notation View

Arabesque, Op. 100, No. 2 by Burgmuller

Tempo: 95 bpm 100%

Volume: 100%



このようなアイコンが並んでいます。

左から「ループ設定」「メトロノーム設定」「左手」「両手」「右手」「Learn Mode」「Jam Mode」「Perform Mode」「楽譜表示モード」「ピアノロール表示モード」「ミキサー表示モード」のアイコンです。

練習モードはLを押します。この練習モードを詳しく設定するにはSetting というメニューダイアログから、Followingを開くと次のような画面が出ますのでさらに細か



く設定できますが、通常は、アイコンから「左手、両手、右手」のどれかを選ぶだけで十分です。又通常のシーケンス・ソフトのようなコントロール・ボタンも有ります。



左から「巻き戻し」「停止」「自動伴奏開始」「早送り」「パフォーマンス再生」「プレビュー」のアイコンですが「録音」のボタンはありません。しかし、このHCではパフォーマンス・モードで演奏されるとそこで演奏されたテンポ変化やダイナミックの変化は自動的に記録されます。それを再生して聴くのが「パフォーマンス再生」なのです。

練習モードで練習する曲はスタンダードMIDIファイルであれば何でも良いのですが、「小節管理」ができたものでないとやってやれないことは有りますが正しく作動しません。この小節管理というのはステップ入力で作られたSMFならば自動的に出来上がっているのですが、メトロノームを無視して手弾きで演奏されたものは本来のメトロノームにより作られた小節と実際の演奏の小節が一致しないのでHCの基本原則である現在位置を特定する基準となる「小節・拍」がクオンタイズされないかぎり使えないのです。ヤマハのアンサンブル用の市販ディスクでも、曲の最初の部分だけ小節管理されていても途中から無茶苦茶になっているものがありますから頭の部分だけで判断するのは危

険です。

又ピアノの曲の場合右手と左手が別チャンネルに記録されているファイルでないと「両手モード」しか使えませんし、楽譜は一段の楽譜に両手が合算された形で表示されます。しかし、初心者のための練習曲の殆どはこの条件を満たしていますので市販のフロッピーで大丈夫です。

さて、話をブルグミュラーの「アラベスク」に戻します。両手用に作られたこのファイルはヤマハが随分前から販売しているアンサンブルピアノ用のものです。実際には独奏曲なのですがこのファイルにはオーケストラ伴奏がついています。

「自動伴奏開始」のボタンを押すとまず前奏が演奏されますが、「両手」モードの時は3小節の前奏が済んだ所で、左手の演奏待ちになり伴奏はストップします。そこで、左手の「A.C.E」の和音を弾くと1拍進みます。この時一つでも音が違うと進みません。CVP205のガイドモードの場合ですと正しい鍵盤が赤いLEDで示されますが、HCでは画面下のフルキーボードの正しい鍵盤にマークがつきます。その意味ではCVP205の方が直視的ですが、将来的にはこのLEDをコンピュータから点けることができるようになると良いですね。

練習モードの面白いところはうっかり#を忘れたとか見落としたという絶対音感者にありがちなミスに対して絶対妥協しないで正しい音を弾くまで次に進まないことです。これは、巷のピアノ教師が「単に音のミスを指摘する」だけで月謝を貰っているというあの費用が完全に浮くことを意味します。

私の経験では、ショパンやリスト等の複雑な曲の最初の練習にはこのモードが非常に有効なようです。練習モードと言えば、つい初心者や初級の曲を連想しがちですが、無調の現代曲や新曲、音の数がが多いとか早い曲の場合ちょっとした臨時記号の見落としや音の間違いを早期に正確に把握できますのでプロにも有効なモードです。又、「両手」モードにしておけばリズムの間違いにも対応しますので正確なタイミングで弾かないとステップが進みません。

練習中コンピュータの操作から解放するために、下の設定を使えば練習中にコンピュータを操作しなくてもピアノの鍵盤を使ってリモコン操作も可能です。(ただしその曲で使用しないキーで設定)

